

## 2021 年度通期 決算 / 中期戦略「CS B2024」説明会 質疑応答要約

**Q) 2022 年度の業績予想について、リスクの織り込み方など、従来と考え方に違いはあるか。**

A) 海上輸送のコストアップや、部材不足、および部材のコストアップは、かつて経験したことのないレベルで長期化しており、それを織り込んでいる。一方、ロシア・ウクライナ問題は、現時点では不透明であるため、大きくは織り込んでいない。

**Q) 産機の四半期受注額が 2021 年度 Q3 から約 1 割落ちている。西安工場のロックダウン影響で受注が延期になっていると聞いていたが、今後の水準はどうなるのか。**

A) 産機の受注が 2021 年度 Q4 に下がっている理由は、西安工場のロックダウンにより、約 1 か月間工場稼働が停止したため。Q3 の IT のスポット受注などの特殊要因を除けば、受注はおおむね 2021 年度 Q1 からほぼフラットに推移した。今後の受注については、意思を込めて伸ばしていく。

**Q) US ドルとユーロの為替感応度を教えてほしい。**

A) 為替感応度は、US ドル、ユーロの売上・仕入れの割合により変動する。2021 年度実績は、1 円円安につき、US ドルは、売上で 16 億円、事業セグメント利益でマイナス 1 億円。ユーロは、売上で 11 億円、事業セグメント利益で 9~10 億円。

**Q) 2022 年度の業績予想について、P&S 事業、マシナリー事業は増収減益の想定だが、どのようなリスクを織り込んでいるのか。**

A) 決算説明資料に記載しているが、為替影響を除いた業績見通しについてコメントする。  
P&S 事業の売上は 83 億円増収。これは、主に本体生産の増加による売上増。事業セグメント利益は、部材・物流費の高騰が影響している。消耗品の在庫充足により航空輸送はなくなる一方で、海上輸送費はかなり高騰している。値上げで対応するが、完全に打ち返すことは難しい。また、プロモーション費用も織り込み、2021 年度比で約 100 億円の減益を見込んでいる。  
マシナリー事業の事業セグメント利益は、部材・物流費の悪化と、重点地域である中国・インドの成長のための先行投資を織り込み、2021 年度比で 10 億円の減益を見込んでいる。

**Q) ニッセイは今後どのように成長につなげるのか。**

A) ニッセイは 2021 年度に完全子会社化する以前から事業拡大を目指して取り組んできたが、コロナ影響などを受けての環境悪化もあり、前中計期間中（2019 年度～2021 年度）は、経営体質の改善に取り組んだ。固定費改善のみならず、ニッセイにとって新規分野である高剛性減速機や精密歯車の開発を進めてきた。取り組みの成果が徐々に出ており、2021 年度の利益にも表れている。体質改善はほぼ見通しがついたので、2022 年度以降は事業拡大に向けて成長加速を図っていく。